

◆資源・環境対策事業

サンゴ礁生態系保全指導（その2）－オニヒトデ対策－

八重山農林水産振興センター 鹿熊信一郎

1. 目的

平成22年度現在、八重山海域において再びオニヒトデが大発生している。このため環境省、沖縄県（自然保護課）、水産庁などの予算を使い、オニヒトデの駆除事業が進められている。駆除の基本的な方針は、「守るべき」「守りたい」「守れる」という基準のもとに、予算の出所に関わらず重点駆除海域を絞り込むことである。本課題は、八重山地域における重点駆除海域を効果的・総合的に選定することを主目的とする。

2. 方法、結果及び考察

- 1) 石垣市は水産庁事業である環境・生態系保全活動支援事業を導入し、八重山漁協の組合員・職員を構成員とする石垣市サンゴ礁保全活動組織が、禁漁区に設定している5海域において、モニタリングと駆除を実施した。
- 2) 前年度立ち上げた「八重山オニヒトデ対策協議会」で最重要保全区域の選定などの方針を検討した。5月25日に第4回協議会を開催し、8月18日に協議会主催の講演会を開催した。また、協議会幹事はこれ以外に

も数回集まりオニヒトデ対策を検討した。

- 3) 8月に2回、石垣島北部で急激に増えた10cm以下の「ちびオニヒトデ」（1cm以下を稚ヒトデと呼ぶことが多いので、便宜上区別する）の調査と駆除に参加した。

八重山ダイビング協会としては、ダイビングポイントとして重要な米原ダブルリーフでちびオニヒトデが増えているため、これを夜間駆除を含め駆除したい意向だった。

しかし、ちびオニヒトデは昼間はサンゴの隙間において駆除が困難なこと、夜間駆除は危険が伴うこと、成体に成長するまでの自然死亡が大きい（1/10になる？）と言われていることから、協議会としてはちびオニヒトデ駆除事業は実施しない方針とした。

- 4) 石西礁湖自然再生基金を活用して、八重山ダイビング協会と竹富町ダイビング組合がオニヒトデ駆除を実施した。事業費は少ないが、普及啓発の効果は高いと考えられる。

3. 今後の課題

八重山におけるオニヒトデの大発生は、少なくとも今後数年間は続くと考えられるため、駆除は継続しなければならない。



図1 御神崎：ダイバーによる駆除



図2 米原：石の下のちびオニヒトデ